

# 新聞に見る三島の 明治・大正・昭和(初期)展



▲河辺富助氏によって創設された瀬戸川製紙場では、色紙やふすま用の大平紙を製造していた。明治初年の第2回国内勲業博覧会に出品して三等賞を得ている。

明治・大正・昭和と、三島がどのように変遷していったかは、たいへん興味深いものがあります。

今回の企画展では、明治以後、急速に普及したマスコミュニケーション媒体の「新聞」を通して、写真や資料を添えながら、近代三島の歴史、風俗を浮き彫りにしてみました。

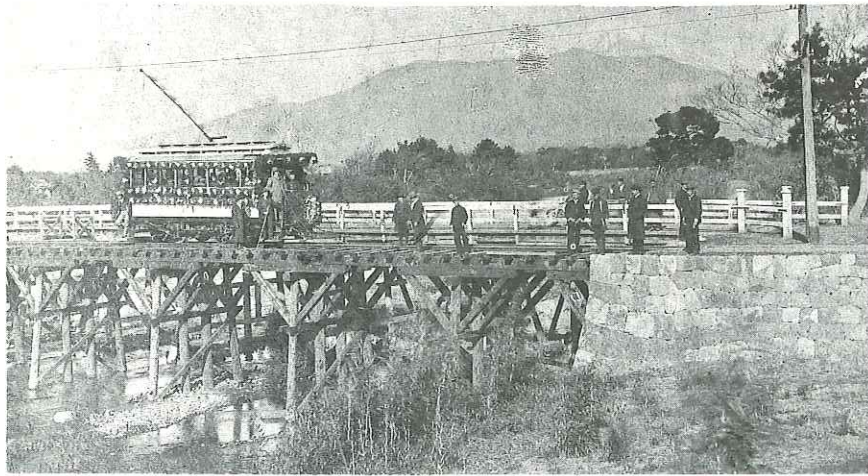
明治期、宿場町時代から、一転、東海道線の開通により忘れ去られた田舎町へ。大正期には町勢の回復を願う先人の努力により、連隊が誘致され、三島の町も時代の流れとともに軍事色が一層濃く

くなります。

また、関東大震災、北伊豆地震等の災害のため、壊滅的な打撃を受けますが、その後の復興計画の中で、町の景観が一新しています。終戦後、連隊跡地へ、大学・高校等が移転されるに伴い、文教都市へと変貌を遂げました。又、新幹線三島駅の開業は、観光都市三島の開幕をつげるものでした。

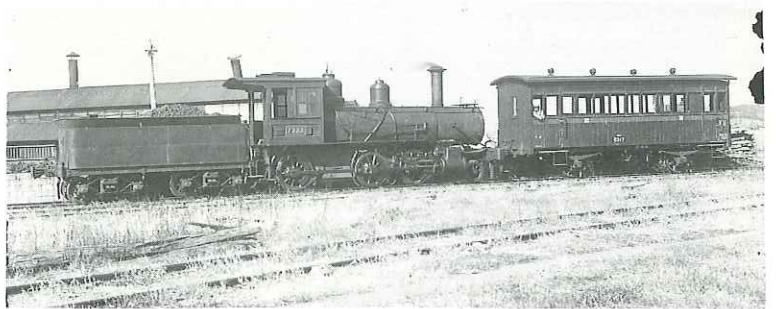
郷土館では資料の発掘に努めております。

今回の企画展を通して、近代三島の人々の生活を実感していただきたいと思います。



## チンチン電車

明治39年10月1日、三島・沼津間に静岡県初の路面電車が開通。開通当日は大社前・小中島・沼津平町の三ヶ所に大緑門を建て、街頭には紅白の幔幕と祝灯を掲げ、市民は仮装行列・山車・屋台の行進をし、戦勝景気もあって大祝賀会が催された。



### 電車開通祝賀會

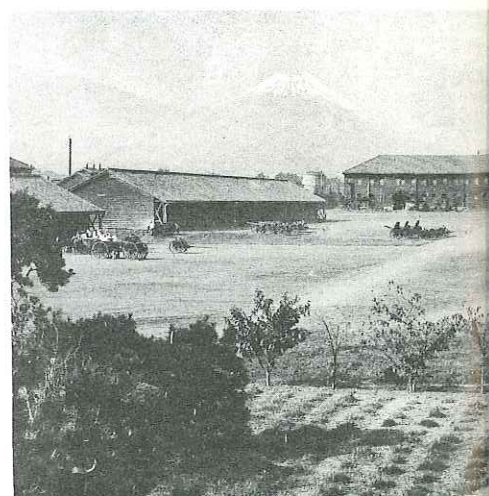
駿豆鐵道會社にては駿豆線電車併用工事競成せるを以て八日午後一時より駿豆地方有志四百餘名を三島町本社に招待、盛大なる開通祝賀會を催す筈なるが當日は會場及び社前に餘興場を設け三島藝妓總出の三島音頭手踊等の外附近在郷軍人、青年會員のマラソン競走を行ふべく競技は「大社参拜競走」復「三呷競走」同社三島驛出往復に「五哩競走」同社山王前間往復等の豫定なりと

## 駿豆鐵道大仁・三島間の電化

大正8年6月、駿豆鐵道（現伊豆箱根鐵道）の大仁・三島間が全線電化された。同月8日には、これを祝つて、盛大な祝賀會が開催された。三島芸妓の手踊り、青年団のマラソン競争などが、主会場の大社前を中心にくり広げられている。

## 連隊来る。

大正5年11月9日の静岡民友新聞には「新の見出しで、野戦重砲兵第二連隊の新設を喜移駐はこの後2年間かかって、大正8年の11の移駐があり、その後の三島に大きな影響をたつた。



### 新設旅團歓迎

## 空前の大盛典

本日は記念館で山林大會  
明日は奉告祭と大祝賀會  
明後日は煙火競技會授賞

### 四十一名

二島町空山の盛典たる新設重砲兵第二連隊旅團長以下將校  
旅團空軍聯隊歡迎大祝賀會は是  
々々十日舉行すべく殊に今日日は  
同町

### 大社境内

駿豆鐵道山林大會を開催する事と  
て一万五千の町民は七日より全町  
一齊に總掛りとなり山車屋敷の飾  
付け成は香披の趣向を凝らし夜を  
徹して八日夜迄不寐れく準備整  
頓したるが九、十兩日の一鼓催し  
は九日の山林大會は午前九時記念  
館に開會、同町祝意を表して午  
後より盛大の

### 園遊會を

大社境内に  
能く中島其他數町は共に山車屋  
敷を曳き出し全町を飾りたる定  
遊園會の趣向を凝らし、同町に全町  
民が参加するべく、

### 記念館に

式式を舉行す、然れば全町の盛典  
は同町空前にして又近隣の觀客頗  
る多かるべく管内は一般賑遊を許  
す筈なれば一入大賑遊を極むるな  
らんと、三島若は當日日本其他所  
近遊園會の趣向を凝らし、同町に全町  
民が参加するべく、

武彦E頁券



THE SHIZUOKA SHIMPO (日曜) 昭和五年十一月二十六日

**静岡民友新聞**

山と山が乗出し  
山と山が乗出し  
山と山が乗出し

約百間に亘り  
道路大蛇列

三千坪の濁水  
修善寺も災

久保町・のだや商店  
の看板が見える。▶

## 北伊豆地震

昭和5年11月26日、函南軽井沢附近の地下を震源とした地震があった。後に北伊豆地震と称されたもので、震源が近いことから、三島や周辺の町村が受けた被害の大きさは、先の関東大地震をしのぐほどだった。



SHIZUOKA SHIMPO (日曜) 大正十二年九月一日

**静岡新報**

緊急勅令出づ！  
戒厳と臨時徴発  
二日緊急開議を開き  
即日施行さる

重大事件が  
十三四師團へ  
動員命令下る

先づ糧秣廠から  
六十万石を配給  
水道復舊近きか

宮城を御解放  
目下避難民收容中

横濱にも戒厳  
小山町被害の跡

救済委員特設  
十箇部に分ち  
雨を突いて被害地へ  
縣廳の總動員

上陸禁止され  
各船清水港へ引返す

高島驛倒壊

一兩日中に復舊せん  
沼津小田原間電話

## 関東大震災

大正12年9月1日午前11時58分に起った地震は、東京・神奈川・千葉・茨城・埼玉・山梨・静岡の一府六県に大被害をもたらした。新聞報道も連日のように震災の被害記事を掲載し、その見出し文字は紙面からはみ出しそうに大きい。

## 三島市誕生

昭和16年4月29日、三島町・錦田村は廃止され、合併する。本県6番目の市として三島市の誕生である。人口33,533人であった。

新報 新報 新報

観光地から商工都市へ  
新發足の三島市  
將來は江の浦方面へ發展

臨時市長には、  
花島現三島町長

表彰  
自治功勞者を  
表彰

海上研究講習  
海上研究講習

列車内で盗難  
列車内で盗難

職工から銀の  
職工から銀の

# 丹那トンネル開通



丹那トンネル開通と新三島駅の設置は、三島全町民の悲願だった。特に丹那トンネルは工事開始以来16年の歳月をかけて完成。昭和9年12月1日は、歴史的な開通式が盛大に催されたのだった。

## 年 表

和暦	西暦	事 柄	和暦	西暦	事 柄
明治元年	1868	6月28日、韮山県に所属する。	明治11~	1878	この頃山岡鉄舟、龍沢寺の星定和尚のもとに参禅する。
2	1869	10月、明治天皇東行の際三島に寄る。	12	1879	3月、大小区を廃し郡制となる。君沢・田方郡役所を韮山江川邸に設ける。
4	1871	2月、三嶋大社社殿造営される。			5月30日、韮山警察署を三島に移し、三島警察署と改称する。
		5月、祇園原水田の開発。			8月15日、「公立三島小学校」(洋風二階建、市役所の位置)落成式。
		5月、三嶋大社官幣大社に列せられる。			8月16日、アメリカ前大統領グラント將軍歓迎会(於三島小学校)
		7月14日、廃藩置県			この年、大中島に医師、瀬尾玄が養和病院を開設する。
		11月14日、韮山県が足柄県に合併される。(県庁小田原、韮山は支庁となる)	13	1880	5月、馬車の営業開始される。
5	1872	5月21日、開心産舎開校(久保町 問屋場跡、校長 吉原守拙)			大社前一大場間(但し不定期)
		8月2日、開心産舎、三島学校に切りかわる。			7月、大場銀行(君沢郡大場村)設立。
		11月9日、太陽暦採用公示。			この年「避病舎」建設(辰巳町、明治26年に全焼)
6	1873	11月、「足柄新聞」発行。この年、人力車宿内で営業される。(世古六太夫等)			行方写真館(小中島)開業。
		官立「三島養」できる。	14	1881	伊豆銀行(韮山)設立。
		三島郵便局起こる。			6月12日、龍沢寺の星定和尚遷化する。
		勤有学校(社家・北上・錦田地区)、中郷学校(中郷地区)開校される。			11月、三島銀行設立
8	1875	夏、キリスト教(プロテスタント)三島に伝えられる。	16	1882	1月、伊豆銀行、三島に支店を開設する。
9	1876	4月、足柄県廃止、旧韮山県は静岡県に編入され、韮山支庁となる。			私立学校中権精舎(田町)建つ。(吉原呼我)。
		巡查屯所三島に設けられる。但し、警察署は韮山	17	1884	三島における中等教育の最初。
11	1878	冬、三条実美公「三島養」の文字を書く。			7月1日、戸長官選となり戸長役場設けられる。(久保町電話局北)
11~	1878	明治天皇、東海・北陸御巡行。			9月15日、大暴風雨、駿豆地方を襲う。
		この頃入江長八、龍沢寺で修業する。			

たるは午後七時二十分なり

(以下次號)

設  
ぶ  
記  
月  
に  
与

和暦	西暦	事柄	和暦	西暦	事柄
明治18年	1885	2月2日、駿東郡・北伊豆地方の借金党の騒動、最高潮に達す。	大正6年	1917	極東煉乳株式会社設立される。「金鶏ミルク」「金線ミルク」他製造される。
19	1886	4月、君沢・田方郡役所を御殿地に新築移転する。	7	1918	伊豆半島社、日刊総合雑誌「伊豆半島」発行。
21	1888	5月、伊豆銀行、三島銀行と合併し本店を菰山町から三島市市ヶ原に移転する。	8	1919	4月、丹那トンネルの掘削工事着工。
		6月15日、バラ女学校開校する。(県内最初の私立女子校)			4月、三島衛戍病院が発足する。
22	1889	4月1日、県下に市町村制施行(三島町他)	9	1920	5月5日、三島商業学校開校(現在の三島南高)
		7月1日、東海道本線全線開通、箱根越えの旅人なくなる。			6月、駿豆鉄道、全線電化。(三島—大仁間)
		12月16日、三島尋常小学校付属幼稚園創立設置される。(市役所西館の位置、現在の中央幼稚園の前身)	12	1923	11月、野戦重砲兵第二連隊が三島に移転完了。
23	1890	3月、火葬場創設(小浜の北郊、新幹線駅の西)			極東煉乳工場と森永製菓工場合併する。
		6月、河島製糸工場設立される。			10月、第1回国勢調査実施(三島町15,686人、中郷村5,032人、北上村2,423人、錦田村4,520人)
		この年、花島兵右衛門の煉乳製造工場設けられる。	13	1924	11月、野戦重砲兵第三連隊が横須賀より移転。
25	1892	龍の本連水の句集「雲霧集」出版される。	15	1926	6月、箱根新国道が完成し、車での箱根越えが可能となる。
27	1894	10月、株式会社三島銀行創立される。(後に伊豆銀行と合併する。)	昭和2年	1927	9月1日、関東大震災起る。(マグニチュード7.9)
28	1895	「金鶏印煉乳」、第3回国内勸業博覧会において進歩二等賞を獲得する。			駿豆鉄道が増設される。(三島—修善寺間)
29	1896	9月、郡域の改編により、君沢郡は田方郡へ合併される。	4	1929	6月、田方郡役所が廃止される。
31	1898	5月20日、豆相鉄道(後の駿豆鉄道)が開通する。(田町—南条間)	5	1930	「伊豆日刊社」起こり、伊豆最初の日刊新聞を経営(和田庄五郎)～18年まで
		6月15日、東海道線に三島停車場(下土狩駅)が開設され、豆相鉄道増設される。(三島停車場—南条間)			この頃「日刊伊豆新聞」(小松善平)発刊、2年間続く。
32	1899	駿豆鉄道、田京・大仁まで増設される。	4	1929	「日刊三島旭新聞」(日向稜威夫)創刊～9年まで
33	1900	西大久保に避病院建設される。	5	1930	3月15日、三嶋大社宝物館開館。
34	1901	5月1日、静岡県田方郡立三島高等女学校開校。(現在の三島北高校、小松宮別邸養蚕室借用)。			6月、天皇陛下、三島に行幸される。
		7月24日、宇野朗、三島病院を開院する(後の社会保険三島病院)。			11月26日朝、北伊豆地震起る。(マグニチュード7.0)被害甚大(死者258人)
36	1903	小松宮彰仁殿下、薨去。	7	1932	平井源太郎、「農兵節」をレコード化する。
39	1906	10月1日、駿豆電気鉄道株式会社の「チンチン電車」(三島広小路—沼津駅間)開通。	8	1933	「三島町他10ヶ村駿豆病院組合」を作る。
41	1908	3月31日、戦捷(勝)記念館竣工する。(木造洋風二階建の公会堂、現在の大社駐車場)	9	1934	6月19日、丹那トンネル貫通。
		6月20日、三島市内電車(広小路—三島停車場<田町駅>)開通する。			3月、三島実科女学校設立(現在の三島高校)
42	1909	11月26日、第一回、田方郡物産品評会三島町にて開催される。			夏、太宰治、泉町に滞在する。当時の三島の様子が作品「老ハイデルベルヒ」に著される。
					12月1日、三島駅開設、丹那トンネル開通式挙行。東海道線熱海経由となる。
					この頃、「日刊三島新聞」(杉沢長十)、「日刊三島毎日」(平山伝治)、「日刊水明」(渡辺武房)創刊される。
			10	1935	4月1日、三島町と北上村合併する。
					山中城跡、国の史跡に指定される。
			11	1936	9月、富士箱根国立公園誕生する。
					野口三四呂「人形芸術院賞」受賞。
			12	1937	第二、第三連隊、上海に出動。
			16	1941	4月29日、三島町、錦田村と合併して三島市となる。(人口33,533人)
					12月1日、県下有力新聞6社が統合し、静岡新聞生まれる。

### ■出品協力者

駿府博物館  
沼津市明治史料館  
沼津市立駿河図書館  
小田原市立図書館  
滝 武彦氏(静岡市)  
樋口正智氏(三島市)ほか

### ■参考文献

三島市誌 中・下巻、増補  
写真集 明治・大正・昭和 三島・修善寺  
三島市医師会四十年史  
70年のあゆみ(県立三島北高等学校)  
60年のあゆみ(県立三島南高等学校)  
静岡県議会百年史  
静岡新聞四十年史  
静岡県の昭和史(毎日新聞社)  
三島教会百年史

### 企画展

新聞に見る三島の  
明治・大正・昭和(初期)展

昭和63年3月26日～5月31日  
三島市郷土館  
〒411 三島市一番町19-3  
TEL 0559-71-8228